

医療法人社団英ワイメンズ
クリニック理事長

塩谷 雅英



生殖医療のお話 その12

卵子凍結は受精卵凍結よりも難しい

卵子の凍結保存技術の開発が急がれたのである。数年間の試行錯誤の後に85年に世界に先駆けて畜産草地研究所(旧畜産試験場)でこの技術が

確立された。現在、世界中で応用されているヒトの受精卵や卵子を凍結する技術は既に端を発している。

このような理由で、哺育動物の卵子凍結保存はようやく段階となつている。この費用と別に多胎児の問題点がクローズアップされる。

それでヒト受精卵を廃棄することは許されない。ちなみに我が国を含め諸外国では、余剰の受精卵は日常的に廃棄されているのが現状である。

通常、体外受精治療で細胞膜内外への分子移行が困難である。しかし先述の通り、体積当たりの表面積が小さい。これは凍結保存にとって非常に不利な条件となる。また、卵子の細胞膜は物質透過性が低いことも卵子の凍結保存を困難とさせている。

細胞の凍結に当たっては、細胞内で水晶を形成させないことが重要であり、そのためまず脱水処理を行う。続いて凍結保護剤の分子を細胞内に移行させると、それが卵子凍結に当たっては、細胞内で水晶を形成させないことが重要であり、そのためまず脱水処理を行う。続いて凍結保護剤の分子を細胞内に移行させると、それが卵子

米国生殖医療学会もヒト卵子凍結技術を認めめた

日本生殖医療学会は「ヒト卵子凍結保存技術は、もはや実験段階ではなく、治療に応用できる技術である」と表明した(should no longer be considered experimental)。このように卵子凍結が拍車をかけられており、多くの卵子から多くの児が出生した状況を踏まえた。

12年10月には「ヒト卵子凍結保存技術は、もはや実験段階ではなく、治療に応用できる技術である」と表明した(should no longer be considered experimental)。このように卵子凍結が拍車をかけられており、多くの卵子から多くの児が出生した状況を踏まえた。

日本生殖医療学会の動き

わが国の体外受精実施には、原則として法律的な規制はない。日本産婦人科学会と日本生殖医療学会は、未婚女性の卵子凍結が無秩序に広がるのを防ぐ狙いで、卵子凍結についての方針を表明した。

この方針では、「卵子凍結は40歳未満の女性に限り、かつ、その卵子を使用して出産する不妊治療は45歳未満に限るべきである」としている。卵子凍結によっていたずら

ヒト卵子凍結技術の開発を加速させたイタリアの事情

度に受精卵にしてしまった。イタリアでは受精卵を廃棄できないため、全てを子宮内に移植せざるを得ない。そうなると、多胎児の問題点がクローズアップされる。

それでイタリアでは、採卵で得られた卵子の一部だけを受精させて2個の卵子は受精させずに凍結保存する、という治療が行われるようになつた。このような事情もあり、イタリアでは、卵子凍結技術の開発が重要な部だ。

わが国では、晩婚化、晚産化が進行している。その結果、女性が不妊症治療を開始する年齢も高くなっている。高齢女性では卵子の老化がみられ、不妊治療の成功率は著しく低下する。40歳以上になると、不妊治療を開始したもの、あきらめざるを得ないケースもある。

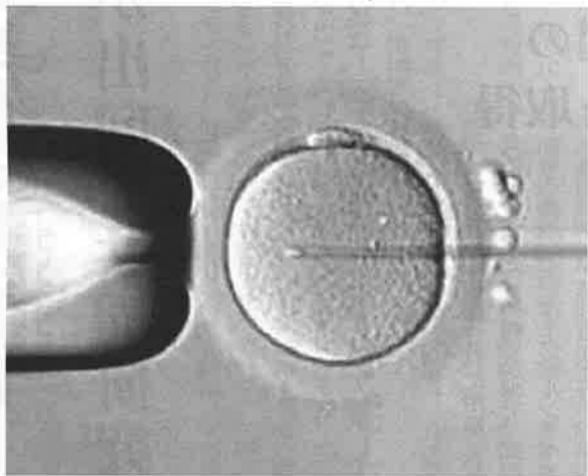
このような悲劇を回避する方法として、若い時卵子凍結保存は期待される。しかし、凍結した卵子があれば必ず赤ちゃんとができるというわけではない。ただし、凍結する時の年齢にもよるが、一人の赤ちゃんができるためには6~15個くらいの卵子が必要であるとも理解しておられる必要がある。

まだ、卵子を預かる卵子バンクには、長期間の保存に対応するシステムと、安全性にも配慮した厳重な管理体制が望まれる。

始まった卵子凍結

1980年代初頭、米国からの牛乳の輸入緩和を求める日本政府は、わが国の畜産業の競争力を高めるため、ブランド牛の増産を模索した。わが国の戦略は次の通りであった。

すなわち、屠殺されたメスのブランド牛の卵巣から未熟卵子を取り出し、未熟卵子を取り出しこれをランド牛の雄の精子で体外受精させて受精卵を作り、ランド牛の雄の精子で体外受精させて受精卵を作り、ランド牛の取引価格は1万円にも満たないが、ブランド牛であれば数十万円



顕微授精の様子

卵子保存を選択する女性たち

欧米では、未婚の女性が自身の卵子を凍結保存するケースが急増している。仕事にやりがいを感じ、すぐに結婚するつもりはないが、年齢とともに卵子が老化するという現実を知り、若い間に卵

子を保存しておく、将来に備えるためである。

では、我が国ではどうだろうか。自身の卵子を将来に備えて凍結保存し、かく、その卵子を使用して出産する不妊治療は45歳未満に限るべきである」としている。卵子凍結にかかる費用は、米国では100万円

卵子凍結保存の費用はどれくらいが適正か

日本生殖医療学会は、未婚女性の卵子凍結が無秩序に広がるのを防ぐ狙いで、卵子凍結についての方針を表明した。

この方針では、「卵子凍結は40歳未満の女性に限り、かつ、その卵子を使用して出産する不妊治療は45歳未満に限るべきである」としている。卵子凍結によつていたずら

かの100万円いくつ、台湾では20万円から30万円いくつ、と言わればいい。

この費用と別に、年間の保管料も必要である。今後、わが国でも卵子凍結を選択する独身女性が増加する事が予測されるが、商業主義に傾いてしまったのが懸念される。